

報恩寺の四尊石仏

ほうおんじのしそんせきぶつ



文化財愛護シンボルマーク

名称	報恩寺の四尊石仏	時代	南北朝時代、文和2(1353)年2月
別称	報恩寺の石仏、報恩寺の石棺仏、 報恩寺の四尊石棺仏、石仏、四尊 石仏、四尊石棺仏	所在地	加古川市平荘町山角 466-12
数量	1基	所有者	報恩寺
寸法	石棺の地上高81cm、幅68cm、厚11cm	指定	加古川市指定文化財
材質	石造、凝灰岩(竜山石)製	指定分類	考古資料
		指定名称	四尊石仏
		指定年月日	平成28(2016)年2月25日



報恩寺の四尊石仏

報恩寺は、中世の印南莊^{いんなんのしょう}の中心寺院で、現在の平莊^{へいそう}町山角^{やまかど}の平莊小学校の東に位置しています。和銅2(709)年に慈心上人^{じしんしょうにん}が開き、13世紀の後宇多院^{ごうだいいん}の頃に證賢上人^{しょうけん}が再興したと伝えられる古刹^{こさつ}です。『西大寺末寺帳』にも載る中世の真言律宗寺院で、鎌倉時代から室町時代の多くの石造品が残り、中世文書を中心に貴重な古文書が伝わるなど、中世の寺社の姿を知るうえで重要な寺院として知られています。

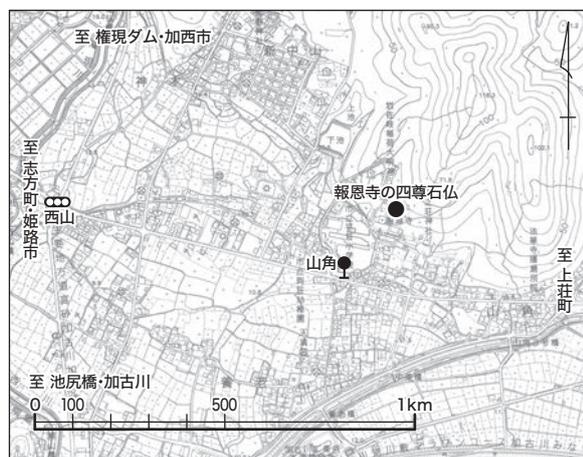
石棺材^{せつかん}を利用したこの石仏は、報恩寺本堂の背後の墓地に西面して立ち、古墳時代の石棺材に、横に並んだ4軀^くの阿彌陀如来坐像^{あみだにょらい}を半肉彫りしています。石棺は、この地域で竜山石^{たつやまし}と呼ばれる凝灰岩^{ぎょうかいがん}製の組合せ式石棺^{くみあわせせき}の長側石^{ちようそくせき}と考えられ、背面に溝^{こう}の加工痕^{こん}があることから、これらの像が石棺材の外側に彫出されていることがわかります。



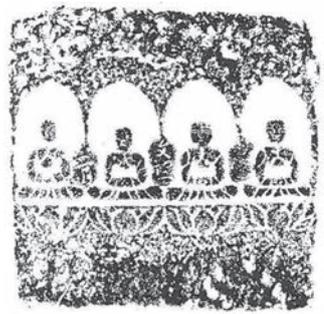
側面及び背面のようす

阿彌陀如来像は、いずれも舟形^{ふながた}の輪郭^{りんかく}を彫りくぼめた中に半肉彫りしており、線刻^{れんげき}した蓮華座^{れんげざ}上に座しています。像高はそれぞれ約18.8cmです。

また、この石仏には銘文^{めいぶん}があり、向かって右から第二尊と第三尊の間に「文和二□（「季」に見えるが、あるいは「年」かもしれません。）」、また、第三尊と第四尊の間に「二月」の文字が陰刻されています。このことから、この石仏が南北朝時代の文和2(1353)年2月のものと考えられます。



石棺材に複数の仏像を彫り出したこのような形式の石仏は、加古川地域の特色を示すもので、また、製作年代が明らかなこの石仏は、この地域の中世の石仏を考えるうえで基準となる貴重なものです。



四尊石仏拓本

(拓本/『加古川市史第7巻』から転載、文・写真/宮本)



四尊石仏全景

●参考文献

- 『加古川市内の石造遺品の調査報告書』永江幾久二、加古川市教育委員会(1962年)
- 『石棺仏』宮下忠吉、木耳社(1980年)
- 『加古川の石棺と石棺仏』大手前女子大学考古学研究室(1983年)
- 『加古川市史 第7巻』加古川市(1986年)
- 『加古川市平莊町の石造美術』藤原良夫(『鹿児』128～135合併号、加古川史学会、1987年)
- 『播磨の石棺仏(図録)』小野市立考古館(2001年)
- 『文化財ニュース59号』加古川市教育委員会(2016年)

●キーワード

彫刻、考古資料、四尊、石仏、石棺仏、石棺板碑、組合せ式石棺の長側石、報恩寺

●所在地/加古川市平莊町山角 466-12

- 交通/JR加古川駅発神姫バス「都台」行「山角」バス停から北へ徒歩3分
車は加古川バイパス「加古川ランプ」から北へ5.5km